

第1回基本構想検討会における基本構想(案)に対する委員のご意見と対応

【(1)検討事項 [基本構想(案)] ①開催意義】

主なご意見	対応
(竹田委員) ○令和10年度の国民文化祭は、愛媛県の魅力を発信するよい機会。愛媛県の特徴として「遍路文化に培われたお接待の心」と記載されているように、<u>県民みんなが応援、参加するという気持ちが必要。</u>	・関係団体と連携し、「全ての県民が主役」となり各事業を「オール愛媛」で取り組むとともに、文化祭開催に向けた広報啓発により機運醸成を図る。
(仁科委員) ○人口が減少する中、文化の力をどう活用していくのかという話は重要な問題で、そういう新しい視点も必要。 ○「まち、ひと、しごと」という表現があって、「まち」は賑わいや文化、「ひと」はひと、「しごと」は産業であり、「ひと」がいて賑わいが生まれることを考えると、<u>人口が減少しても賑わいがあり、「まち」が生き残るということも重要。それが一つの文化の意義と思うので、もう少し意識した開催意義でもよい。</u>	・ご意見を踏まえ、冒頭で文化芸術の意義を示し、人口減少や少子高齢化が進むなか、<u>文化芸術の振興が地域社会を持続・発展させていく上で重要な役割を担うことを明確にしつつ、愛媛県で開催する本文化祭において、文化芸術が持つ「共に創り、共に生きる」力を活用することにより、未来の新たな社会を作り出す起点となることを目指すこと記載</u>
(日比野委員) ○愛媛県が国民文化祭という大規模な文化事業を実施する意義として、<u>文化芸術に携わることが県民の幸せな人生に寄与するということをきちんと発信していく大会、今後の国民文化祭を開催する都道府県にとってエポックメイキングとなるような大会の開催趣旨というものを打ち出してみるのもよい。</u>	・ご意見を踏まえ、冒頭で文化芸術の意義を示し、<u>国民文化祭による文化芸術の振興が、社会・経済活動や地域活力の向上、共生社会の実現などに寄与することを記載</u> ・また、基本方針の柱の1つ(③文化芸術でつながるまちづくり)として、アート力で地域の新たな魅力や価値を創造し、活性化を目指す県と東京藝術大学との連携プロジェクト「アートベンチャーエヒメ」の理念を核とすることで、2回目の「アートベンチャーエヒメフェス」と連携するほか、具体的な実施事業の検討に取り入れていく。
(日比野委員) ○東京藝術大学が岐阜県の国民文化祭から連携し取り組んだ「文化的処方」プログラムについて、後催県でも取り組む予定。<u>文化芸術に関わるのが、国、県、地域の豊かさにつながるということをしっかりと評価していくプログラムが重要。</u>	・今後、具体的な実施事業の検討に取り入れていく。
(河内委員) ○障がいへの理解が近年進んでいる中、<u>全国規模の文化祭が実施されることは、障がい者の共生社会の実現として非常によい機会。</u>	・年齢や障がいの有無、国籍などに関わらず、誰もが自分らしく参加できる文化芸術活動を展開する。

【(1)検討事項「基本構想(案)」②基本方針】

主なご意見	対応
(仁科委員) ○<u>人口減少・少子高齢化に伴い、外国の方が少しずつ増えていくなか、外国の文化を日本の文化に取り入れ、新しい日本の文化を作るという考え方</u>あり、共生社会に関連するものがあるので、「<u>文化芸術でつながるまちづくり</u>」と「<u>文化芸術を通した共生社会の実現</u>」について、<u>文言や構成を修正してもよい。</u> ※第2回においては、第1回から記載順を変更〔第1回資料〕 ① 愛媛文化の結集と発信 ② <u>文化芸術でつながるまちづくり</u> ③ <u>次世代への文化芸術の継承と創造</u> ④ <u>文化芸術を通した共生社会の実現</u> ⑤ 交流人口の拡大と地域活力の増進 〔第2回資料〕 ① 愛媛文化の結集と発信 ② <u>次世代への文化芸術の継承と創造</u> ③ <u>文化芸術でつながるまちづくり</u> ④ <u>文化芸術を通した共生社会の実現</u> ⑤ 交流人口の拡大と地域活力の増進	・ご意見を踏まえ、「人口減少・少子高齢化」は、「文化芸術でつながるまちづくり」以外にも関連すること、開催意義の冒頭に、「<u>人口減少・少子高齢化の課題を踏まえながらも文化芸術が地域社会を持続・発展させていく上で重要な役割を担う</u>」ことを記載したことにより、文言を修正 ・なお、基本方針③と④の記載趣旨は下記のとおり。 ③:<u>文化芸術でつながるまちづくり</u> アートで地域の新たな魅力や価値を創造し、活性化を目指す県と東京藝術大学との連携プロジェクト「アートベンチャーエヒメ」の理念を記載しており、今年度で開催した「アートベンチャーエヒメフェス」の2回目を、令和10年度の国民文化祭と連携させる趣旨 ④:<u>文化芸術を通した共生社会の実現</u> 年齢や障がいの有無、国籍などに関わらず、多様な価値観を認め合う文化祭を目指すほか、全国障害者芸術・文化祭の目的である「共生社会」の実現を目指す趣旨

【(1)検討事項「基本構想(案)」③統一名称】

主なご意見	対応
(竹田委員) ○「つながる」、「つなぐ」、「咲く」というのは愛顔からイメージできるので、<u>イメージが重なる言葉をカットした方がよい。</u> ○「えひめ愛顔の」より、「<u>愛顔えひめの</u>」という方が<u>ずっと言いやすいと感じる。</u>	・ご意見を踏まえ、「愛顔えひめの文化祭2028」を候補案として追加